西福寺寺報 道 ― michi ―

2026（令和8）年　報恩講号

世界虚空が　みなほとけ
わしもそのなか　南無阿弥陀仏（浅原才市同行）

浄土真宗本願寺派
（本山：西本願寺）
多聞山
西福寺
〒739-0152
東広島市八本松町吉川153-2
TEL：082-429-1038
FAX：082-429-1398
https://tamonzan-saifukuji.net/



（今回の法座）報恩講法座

12月　2日（水）夜席（19:30～21:00ごろ）
3日（木）朝席（09:00～11:30ごろ）
お斎（昼席前に昼食をご用意します）
昼席（13:00～15:30ごろ）

ご法話	ことばのはたらき
講　師	坂上 良さん（大阪府高槻市 本願寺派布教使）



1972年高知市生まれ
本願寺派布教使、研修講師
お西のお坊さん（本願寺境内案内担当）
中央仏教学院講師

法座は、毎回、全席をYouTubeでホームページ「多聞山西福寺.net」内「YouTube（法座配信）」で配信しています。
お寺にお参りできない方もご自宅などからお聴聞いただけます。　※スマホの方は右のQRから→

仏教婦人会月例法話会
（お寄り講13:30~15:00）

11月お休み
12月17日（木）
仏教婦人会報恩講と併催
1月25日（月）
西福寺庫裏（お世話：本郷）

お経会（大人の寺子屋）
（毎月第3木曜日13:30~15:00）

『正信念仏偈』を読む
11月19日
12月・1月お休み
2月18日
3月18日

オアシス法話会
（毎月第4木曜日13:30~15:00）

『仏さまの言葉を生きる』
11月12日（第2木曜日）
12月・1月お休み
2月11日（第2木曜日）
3月25日

土曜学校
（毎月第2土曜日9:00~10:00）

11月21日（第3土曜日）
12月12日
ほうおんこう（9:00~10:30ごろ）
1月9日
2月13日

最初の一歩

はじめての法座ガイド（初参拝の方へ）
- 服装自由・手ぶらOK（聖典／念珠／門徒式章はあれば）
- 1席のみ・途中入退堂OK／イス席あり／焼香は周りをみながらでも大丈夫
- 配信の見方も含め、困ったらお気軽にお問い合わせください。

※お布施（ご法礼）のお預けは任意です。

寺報を読み終わった後は、しまい込まないで、ご家族みんなでご覧ください。子どもさん、お孫さん世帯など用に2部以上必要な方は、お知らせください。

お寺だより

法座

10月20・21日
秋季永代経法座
【おつとめ】〔20日昼〕『三奉請』『表白』『仏説阿弥陀経』念仏和讃』※門信徒総追弔会併修〔20日夜〕『三奉請』『表白』『仏説阿弥陀経念仏和讃』※門信徒総追弔会併修〔21日昼〕『正信念仏偈』
【参拝者】72名（のべ人数）
【仏教讃歌】『みほとけは』
【ご法話】「安楽浄土にいたるひと」安部敏孝さん（安芸高田市向原町　圓光寺）〔20日昼席のご法話（要約）〕

松尾芭蕉の俳句に、こういうのがありますよ。

物言えば　唇寒し
秋の風

この句の前書きには「人の短を言うことなかれ　己の長を説くことなかれ」とあるんですね。こういうことばっかり言うとるから唇が寒いんじゃいうことですわ。お念仏を申したら、私は唇は寒うならん思うんですね。仏徳讃嘆ですから、人の短を言う暇も、己の長を説く暇もありません。

でも私らは、すぐ己の長を説きますで。息子にいっぺん言われたことがあるんです。「お父さんはすぐ自分がやったことを言う」って。その時は腹が立ちましたが、よう考えてみたら息子が言うとおりですわ。振り返ってみたら、自分のやったことなんかこれほどもありません。全部周りの人がやってくれておるんです。おかげさま。そういうことに気づいていくというのがお念仏の心じゃないでしょうかね。

今日のご讃題は、先立っていかれた方がお浄土で仏となって、行きっぱなしじゃない、この迷いの世界へ還り来たって、この私にお念仏のご縁を結ばせ、やがて必ずお浄土に生まれさせてくださる、そのはたらきを喜ばれた和讃であります。五濁悪世というのはお浄土じゃありません。私たちの煩悩が作り出した、この世のことですわ。そこへ還ってこられる。お釈迦さまが弥陀のご本願を説くためにこの世にお出ましになられたように、というんですね。

よく「浄土へ帰られた」と言いますが、私は、この迷いの世界をずっと流転してきたこの身が、この度初めてお浄土へ往かせていただくんじゃと聞かせていただく方がありがたいと思うんです。往相、そして還ってくる。往還の二相といいます。往くのも還るのも、すべて仏さまのおはたらき。私の力で往生することは、これっぽっちもありません。

去年の2月、私のいとこが亡くなりました。3つ下で、京都で兄弟のようにして暮らした仲ですわ。がんが見つかりましてね。一昨年の暮れ、ご主人から「何か法話を書いてほしいって言ってます」と電話がありました。それで書いたんです。「お念仏をいただいた者は、必ず浄土に往生して仏とならせていただき、この迷いの世界へ還ってくることができる。縁の深かったものから順に、仏となるためのはたらきをさせていただくことができるんじゃ」と。そして最後に「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と書いてメールで送ったんですね。

年が明けて2月に亡くなり、葬儀の終わりの挨拶で、ご主人がこのメールの話をしたんです。「病室で、まだ息のある時に娘二人が枕元で読んでくれた。最後のお念仏のところを声を合わせて読んだ時、家内は目を閉じて『ありがとう』と言いました。涙が一筋こぼれておりました」と。

私は帰りの新幹線でも、思い出しては涙、涙ですわ。ご縁のなかった者が、先立っていった者のはたらきによって、今お念仏をいただくことができたんです。「ありがとう」と言うたのは、まず仏さまの救いに。そして娘ふたりが声を揃えてお念仏をしてくれたことに。お念仏はね、「ありがとう」の心なんです。仏さまが私に届けてくださったお念仏を、「ありがとう」と聞いて、称えていくことですわ。

さて、「永代」と「永久」は違います。永久いうのは「常」、休むことなく留まることなくずっと、ということです。そんなものはこの

報恩講法座次第

一、おつとめ
2日夜席『往生礼讃偈（初夜）』
3日朝席『正信念仏偈（行譜）』
昼席『正信念仏偈（行譜）』
『御伝鈔』拝読
一、『浄土真宗の教章（私の歩む道）』
「教義」「生活」「宗門」
一、『聴聞の心得』
一、ご法話前半（約30分）
（休憩10分）
一、仏教讃歌
『報恩講の歌』
一、ご法話後半（約30分）
※夜席は約40分（休憩なし）
一、『浄土真宗の救いのよろこび』
一、『恩徳讃』

YouTube saifukuji_inweb 最新情報

2026 10/31 現在

登録者数	視聴回数	総再生時間
689	136,453 回	20,768.7 時間

秋季永代経法座アーカイブ

10/20 昼席　10/20 夜席　10/21 朝席　10/21 昼席

世にはありません。親鸞聖人は『一念多念文意』で、「つね」にはふたつあると言われます。ひとつは「恒」。その時々に、折に触れて、ということです。仏さまの側が「常」。私が寝ておる時も起きておる時も、休むことなくはたらき続けておられる。私の側が「恒」。今日のようにお参りになって、折々に仏さまに出遇うていく。永代経の「永代」は、この「恒」なんです。私、私の子、孫、友人、世話になった人。その時々に、代々に、ということですわ。

醒めてのち
そばにいるとは　思うなよ
宵から守る　母の手枕

子どもは目が覚めて、お母ちゃんが手枕をしてくれておったと気づく。でも親は、眠り始めた頃からずっとそばにおったんです。仏さまのはたらきも、私が知る前からずっと届いておるんですね。東井義雄先生は「拝まない時も拝まれている　子供が親の願いの中に生きているように」と言われました。私が拝まない時も、もうずっと願われてあるということです。

ですから、折に触れて仏さまに出遇うていくのが大事。ご法事をしてくださいよ。何年か前、75回忌をお勤めになったお宅があります。お参りしたのは若い人ばっかりだったそうです。子供や孫ですね。会うたことがない人のために、代が変わってもお参りをしてくれる。親鸞聖人の750回忌にも、顔も見たことのない方のご法要に全国から人が集まりました。それが永代ということなんですね。

お経さんも同じです。お釈迦さまの教えは、もともと口伝でした。それを摩訶迦葉が発案して結集し、文字に残した。三蔵法師たちが命がけでインドから中国へ運び、漢字に訳され、日本へ伝わった。時と場所を超えて、今この私に届いたんです。仏さまというのは教えなんです。その教えが私に届いた時にはたらきとなる。お経さんは大事ですよ。

意味がわかろうがわかるまいが、お経さんのありがたさを知っていく。どうぞご法事をしてください。お聴聞も、同じようにしてください。

身近なできごとをとおして、仏さまのお心をお取り次ぎいただきました。ユーチューブで、ぜひ全席お聴聞ください。

仏教婦人会

10月26日
月例法話会
【場　所】西福寺庫裏（東郷）
【参加者】17名
【おつとめ】『正信念仏偈』『御文章』「信心獲得章」
【ご法話】『なるほど浄土真宗』より「信心獲得章のこころ」

お経会（大人の寺子屋）

10月15日
【参加者】6名
【おつとめ】『正信念仏偈』『浄土和讃』「安楽浄土の依正」
【ご法話】『正信念仏偈』「建立無上殊勝願　超発希有大弘誓」「聞名見仏の願」（第45願）は法蔵願力のなせるなり　天上天下にたぐひなし　大心力を帰命せよ」6首　『御文章』「御袖章」（『御文章ひらがな版』176ページ）

オアシス法話会

10月8日
【参加者】9名
【おつとめ】『正信念仏偈』『正像末和讃』「如来の作願をたづぬれば　苦悩の有情をすてずして　廻向を首としたまひて　大悲心をば成就せり」より6首　『御文章』「出家発心章」（『御文章　ひらがな版』14ページ）
【ご法話】「あなたがいるから　わたしがいるよ」

土曜学校

10月10日
【参加者】3名
【おつとめ】『正信念仏偈』
【絵本】『ぐりとぐらのえんそく』作／中川李枝子　絵／山脇百合子〔福音館書店〕
『ぶどう畑のアオさん』作／馬場のぼる〔こぐま社〕



安芸教区・東広島組近況

10月6日　安芸教区DX推進部会
10月13日　東広島組講習会　（造賀　源光寺）
10月23日　東広島組総代会総会研修会　（吉川　西福寺）
【参加者】原田照之さん　山崎幹雄さん
10月15日　見真編集委員会
10月29・30日　安芸教区布教団後期研修会
11月12日　安芸教区仏教婦人会連盟　実践運動後期研修会
11月12日　安芸教区保護司会幹事会　（中区　エディオンピースウイング広島）
12月4日　安芸教区布教団役員会

住職近況

10月5日　視聴覚伝道研究会布教研修大会　（京都市　龍谷大学大宮キャンパス）
10月7日　聞光の会（第125回）　（中区　広島別院共命ホール）
10月12日　安芸教区布教団第33回聞法の集い　（中区　本願寺広島別院本堂）
10月27日　安芸教区佐伯西組　仏教婦人会連盟研修会出講　（廿日市市　光明寺）
10月31日　備後教区三次組僧侶研修会出講　（三次市　みよしまちづくりセンター）
12月7日　安芸教区DX推進部会研修会出講　（中区　本願寺広島別院）
12月24日　聞光の会（第126回）　（中区　広島別院共命ホール）

報恩講（ほうおんこう）―親鸞聖人のご恩を偲ぶ、1年で最も大切な法要―

「報恩講」は、浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご命日（1月16日）をご縁として、「み教えに出遇えたご恩」に報いていく法要です。

報恩講は、まず「ご自宅のお内仏」から始まり、「西福寺」、そして「京都の本願寺」へと広がっていきます。

「これまで家でお参りをしたことがない」「最近お休みしていた」というご家庭も、まったく心配いりません。ぜひ、手を合わせるひとときをご一緒いたしましょう。

ご自宅へのお参りについて

吉川・原地区の皆さま

ご希望の日時をお寺までお知らせください。ご都合に合わせて日程を調整いたします。

それ以外の地区の皆さま

お寺からお参りの候補日時をご案内いたします。

※ご都合が合わない場合は、いつでも日時の変更が可能です。

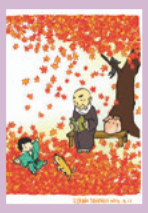
当日の準備とお願い

おつとめの時間／約30分です。

準備するもの／普段のお参りと基本的に同じです。

ろうそく／「赤い（朱色の）ろうそく」を灯します（※仏壇店などで市販されているもので大丈夫です）。

「お内仏の掃除やお供えはどうしたらいい？」「御布施の表書きは？」など、分からないことがあれば何でも気軽にお尋ねください。



仏教婦人会報恩講法座

12月17日（木）

本堂にて13:30～15:00ごろまで

おつとめ前にお斎（昼食）をご用意します

どなたでもお参りいただけます。

お斎を召しあがって、ご一緒にお聴聞いたしましょう。

倶会一処

浄土での再会を期して

生前のご苦労を偲び謹んで哀悼の意を表します。

永代経懇志

[redacted]様　亡夫の志を継いで

[redacted]様　亡夫の志を継いで

ご懇意、衷心より感謝申しあげます。

これからも、お念仏ご相続ください。

永

代経とは永代にわたりお経が残り、仏法が伝わっていくということです。

「永代経懇志」とは、先人の残し伝えてくださったみ教えを聴聞する「聞法道場」であるお寺が、永代にわたり存続することを願ってお預けされるお布施のことです。

今を生きる私たちが、先人から受け継いだ教えに出遇うためのご縁を、後世に伝えるためのお布施です。多くは故人の遺志を継いでお預けされますが、事前にお預けくださっても構いません。

⚠**故人を永代にわたり追善供養してもらうためではありません。**

【感　謝】

寺報への志　2件

お心遣いいただき、ありがとうございました。



はちす墓苑にお参りされる方へ

マイクロン広島工場の拡張工事にともない、墓苑周辺の通行が制限される場合があります。

お墓参りの際には、交通誘導に従って、安全にご通行ください。



ペットボトルキャップをワクチンに

安芸教区では、ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届ける運動をしています。みなさまもぜひ、洗浄済みのキャップをお寺に持ってきてください。住職が広島別院に届けます。ご協力よろしくお願いいたします。



チャンネル登録 よろしくお願いいたします。

YouTube チャンネル「saifukuji_inweb」



こんな方におすすめです！

- 法座にお参りしたいけれど、体調がすぐれず、長時間座っていられない。
- ご法話をもう一度ゆっくりお聴聞したい。
- ご法話に興味があるが、「お寺に行くのはちょっと…」とためらっている。
- 最近、お寺や仏教のことが、なんとなく気になってきた。

まずは配信でご法座の雰囲気を体験してください。

チャンネルではご法座を配信中！

- ご法話だけでなく、お勤めや休憩時間も配信しています。お寺時間をご一緒しましょう。
- 過去のご法座もアーカイブしています。いつでもお聴聞してください。





見方はかんたん！

①「YouTube（ユーチューブ）」を開く。
②「saifukuji_inweb」または「多聞山西福寺」で検索。
③見たい動画を開く。
LIVE 配信中の法座は、LIVE マークが目印。
（任意）登録をすると、更新情報が届きます。

ホームページでも見られます

右の QR →
ホームページ内
YouTube（法座配信）

お手伝いします！

「見方がわからない」「スマホでうまく開けない」そんなときは、お気軽にご相談ください。ご一緒にご案内いたします。

★お問い合わせ★
表表紙の電話番号
裏表紙の連絡先へ
（電話・メール・SNS）

YouTube のお聴聞
（スマホ OK）
□通信料：視聴にはデータ通信料がかかります（Wi-Fi 推奨）

「西福寺はちす墓苑」新規区画・門信徒合同墓利用者募集

〔対象〕西福寺門信徒またはご縁のある方
〔費用〕
【新規区画】永代使用（1m × 2m）30 万円～
永代管理費別／墓石代別
【門信徒合同墓】永代納骨ひとり 5 万円
（4 人以上 20 万円）
納骨後は遺骨のお返しはできません。
一時預かりひとり 1 万円（1 年間）
最長 32 年間まで。




門信徒合同墓

〔問合せ〕詳しいご相談、お申し込みはお寺までご連絡ください。

浄土真宗のことば入門　広辞苑編

つい―たち【朔日・朔・一日】
（ツキタチ（月立）の音便。こもっていた月が出はじめる意）
①西方の空に、日の入ったあと、月がほのかに見えはじめる日を初めとして、それから10日ばかりの間の称。（陰暦の）月の初め。上旬。初旬。伊勢物語「時は三月の―、雨そほふるに」
②月の第一日。いちじつ。古くは「ついたちの日」ということが多い。蜻蛉日記（下）「閏二月の―の日、雨のどかなり」
③特に、正月一日。元日。紫式部日記「ことしの―、御まかなひ宰相の君」

つき―かげ【月影】
①月のひかり。古今和歌集（雑）「―のいたらぬ里もあらじと思へば」。「―さやかな夜」
②月の形。月の姿。源氏物語（末摘花）「をりをりの―などを」
③月の光に映し出された物の姿。源氏物語（橋姫）「ほのかなりし―の見おとりせずは、まほならんはや」
④薄墨で竹などの模様をすり出した紙。

〔『広辞苑　第七版』〕

今回は「月」をとおして、阿弥陀仏の慈悲のお心を味わいます。

古くから太陽と月の光は、時間や方向を知らせてくれるものでした。月のはじめを「ついたち」と呼ぶのは、「月立ち」、こもっていた月が姿をあらわしはじめることに由来します。また月は眺めることができるので、人々の道しるべとなったことでしょう。

『月の沙漠』という童謡があります。作詞をした加藤まさをは当時、結核を患っており療養のため千葉県の御宿に滞在していました。そのときの経験、見た風景が創作の契機となったといわれています。歌のなかでは、王子とお姫さまがふたりっきりで、月影のなかあてもなく旅する様子がえがかれます。この歌は１９２３（大正12）年に発表されましたが、発表後関東大震災が発生し、日本は急激に不穏な時代へと移りかわりました。ふたりが歩む姿は、行き先へ漠然とした不安を抱えた当時の人々にどのように響いたのでしょう。

がつあいざんまい　月愛三昧
釈尊が阿闍世の身心の苦悩を除くために入った三昧の名。きよらかな月の光が青蓮華を開花させ、また夜道を行く人を照らし歓喜を与えるように、仏がこの三昧に入れば、衆生の煩悩を除いて善心を増長させ、迷いの世界にあって、さとりの道を求める行者に歓喜を与えるという。『涅槃経』に「世尊大悲導師、阿闍世王のために月愛三昧に入れり」（信巻引文・註２７９）と説かれている。

〔『浄土真宗辞典』本願寺出版社〕

昔、砂漠をゆくキャラバンは夜に移動したといわれます。砂漠は昼間は灼熱です。普段は人を育てる太陽の光は、砂漠という厳しい環境では人間にとっては危害を加えるはたらきになります。しかし、夜に輝く月は、穏やかな光をとおしてやさしく人を導きつづけます。『月の沙漠』のふたりの姿は、まさに「月影」――月の光に映し出された姿だったのです。

阿闍世は自らの欲や怒りによって、父を殺し、母の心を傷つけていきました。その行為によって、体は腫れ物に苦しみ、心もすさまじい後悔に悩まされていきます。そんな阿闍世にお釈迦さまは「阿闍世のためにはかり知れない長い間涅槃に入らない*」とおっしゃいました。涅槃とは欲や怒りが全く消滅したさとりの境地です。仏としての究極のよろこびの中に歩む道を捨て、苦悩のまっただ中に沈む阿闍世とともに歩んでいくと宣言されたのです。月の光のように阿闍世を照らしたこのはたらきは、『涅槃経』で「月愛三昧」と説かれています。また、親鸞聖人は『涅槃経』の「阿闍世とはあらゆる煩悩をそなえたもの*」という言葉をとおして、阿闍世とは聖人ご自身の姿であり、私の姿でもあるとお示しくださいます。

仏さまの慈悲も、この月の光にたとえられてきました。月の光により、どんな暗闇であってもやさしく照らし、導きつづけてくださる仏さまのやさしさを私たちは知ることができます。親鸞聖人は、お釈迦さまが阿闍世を救う姿をとおして、私たちによろこびを与えてくださる阿弥陀仏のお慈悲のはたらきを明らかにしてくださっています。

*現代語訳は〔『浄土真宗聖典　顕浄土真実教行証文類（現代語版）』本願寺出版社〕より

今回のまとめ
●月の光のように、仏さまは私を照らし続ける。
●阿弥陀仏の慈悲が、私の道しるべとなる。



浄土真宗のことば入門　『正信念仏偈』その72

〔本文〕
建立無上殊勝願　超発希有大弘誓

〔書き下し文〕
無上殊勝の願を建立し、希有の大弘誓を超発せり。

（『浄土真宗聖典　註釈版』顕浄土真実教行証文類行文類）

〔現代語訳〕
この上なくすぐれた願をおたてになり、世にもまれな大いなる誓いをおこされた。

（『浄土真宗聖典　顕浄土真実教行証文類（現代語版）』）

第10願「設我得仏　国中人天　若起想念　貪計身者　不取正覚」（不貪計心の願）
たとひわれ仏を得たらんに、国中の人天、もし想念を起こして、身を貪計せば、正覚をとらじ

（『顕浄土真実教行証文類行文類　浄土真宗聖典註釈版』17ページ）

わたしが仏になるとき、わたしの国の天人や人々が、いろいろと思いはからい、その身に執着することがあるようなら、わたしは決してさとりを開きません。

（『浄土三部経－現代語訳』〔本願寺出版社〕）

世尊よ。もしも、かのわたくしの仏国土に生まれた生ける者どもが、少なくとも自分の身体についてでも少しでも執着する想いを起こすようであったら、その間はわたくしは、〈この上ない正しい覚り〉を現に覚ることがありませんように。

（『浄土三部経（上）』中村元・早島鏡正・紀野一義訳注〔岩波文庫〕）

ろくじんつう　〔**六神通**〕　梵語シャッド・アビジュニャー（sad-adhijna）の漢訳。六通ともいう。すぐれた智慧に基礎づけられた自由自在な活動能力。①神足通。欲する所に自由に現れることができる能力。②天眼通。世間のすべてを見通す能力。また衆生の未来を予知する能力。③天耳通。世間一切の苦楽の言葉、遠近の一切の音を聞くことができる能力。④他心通。他人の考えていることを知る能力。⑤宿命通。自己や他人の過去のありさまを知る能力。⑥漏尽通。煩悩を滅尽させる智慧。六神通のうちの前の五は凡夫にも得られるが、第六の漏尽通は聖者のみが得るといわれる。

（『浄土真宗辞典』本願寺出版社）

どうもこの本願の言葉の中には、漏尽という字がないのでありますから、これは漏尽通ではないという説もあります。けれどもだいたいが六神通という順序になっていますから、これは漏尽通と考えた方がよいのであります。漏は煩悩であります。煩悩をなくする智慧がそこへ出てきて、そうして身贔屓、身勝手ということがなくならんずば正覚を取らない、こういうのが十番目の願いであります。

さきほど申しましたように、前の五つの通力は必ずしも出世間ではない。必ずしも無我から現れない。ときによると自愛の心に利用されうるのである。通力をもって自分勝手の行動をすることもできうるのである。人の心の機微もわかるし知識感情が発達していても、根本に自我愛をいうものが強いときは、その自我愛に利用されるということも考えられるのであります。そこで今度はもうひとつ高めて、自我愛や自分勝手でない、世間というものを超えて自我を否定するところの道へ進んでいくのであります。他の翻訳では「身を貪計せば」というのを愛欲あればと書いてあります。ことにおもしろいのは、こういうのがあります。「みな心相敬愛せしめ、遂に相嫉憎することなからん」憎んだり嫉んだりすることのないようにしよう。想念を起し身を貪るということがないのは、裏からいえば、たがいに相敬愛したがいに憎んだり嫉んだりすることのないようにしたいということである。それをもう一つ高めれば、漏尽通ということになる。こういうふうにいわれるのであります。

（『四十八願講義』金子大榮著〔法蔵館〕）

仏の智慧とは、学力や教養が高い、知識が豊富、など世間での知ではなく、怒りや嫉みを持たずに物事を見て、煩悩を起こすことなく、お互いに尊敬し認めあっていけることです。

※2021（令和3）年11月18日の「お経会（大人の寺子屋）」講義資料からの抜粋です。



Photograph Collection

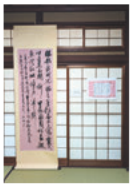
西福寺作品展














今年も素敵な作品により、にぎやかに開催させていただきました。
出展してくださったみなさま、有り難うございました。



秋季永代経法座



ご法話の様子






仏教婦人会地区役員のみなさまが、おはぎをお供えしてくださいました。各席後、お下がりとして参拝者にお配りしました。
有り難うございました。

土曜学校



七高僧さまと一緒



お絵かき中



連弾中

ゆうちょ銀行振込口座

安全面の観点から、ホームページ掲載のPDFには口座情報を載せていません。
お振込みをご希望の方は、お寺までお問い合わせください。

ご寄付は随時お預かりしております。

PayPay でのお納め（本堂・庫裏内）

本堂・庫裏内では、PayPayでも「お賽銭／お布施／ご寄付」をお預かりできます。操作が不安な場合は、お気軽にお声がけください。



※ PayPay は 本人確認済みのアカウント のみご利用いただけます。

庫裏っく

◆安芸教区の広報活動に関わることを調べる方法などで、他の人が書かれた書を校正するこがあります。私間違いだと思っていたことが、気づかぬ手がる誤こいて、「正しい形」が植えだもしと多てるいいでと思うがあります。◆読みさ覚えの方が、「正しい形」をとかと知らさとのうこと初めて間違いに気づくのは、自分の中だけであり、迷いの闇の中にしかいない者は、光に差しこまれるとは闇がさっと破らるとのでしょう。◆迷いの闇を破る光は、私たち自身の中にあるのです。

ご寄付について

- ご寄付は 随時 お預かりしております。
- 個人名／団体名 でのご寄付（ご寄進）をご希望の場合は、事前に住職までご相談ください。

WEB 賽銭箱

ホームページから「お賽銭／お布施／ご寄付」をお預かりできます。
（クレジットカード専用）

ホームページの「WEB賽銭箱」ページをご覧ください。

年間法座予定　はじめての法座ガイド　ご用件別の入口　オンライン本堂　お問い合わせ　西福寺のいま (SNS)